

## 工場見学会のお知らせ

おかげさまで、ご好評につき、今般、滋賀工場におきまして、株主様向けの工場見学会を開催いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

### 開催概要

見学場所：滋賀工場(滋賀県甲賀市)

同工場では、ホンダ様のフィット、N-BOX、N-WGNなどの車体部品を生産しております。

集合・解散：JR京都駅 八条改札口(バスにて滋賀工場まで送迎いたします。)

※お車等での工場への直接のご来場はご遠慮ください。

開催日程：2017年4月11日(火) 13:00(予定)

内容：概要説明の後、徒歩にて構内を概ね1時間程度ご見学いただく予定です。

対象者：2016年9月末時点の当社株主様

募集人数：20名

参加費：無料(但し、集合・解散場所までの交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)



### 応募要領

応募方法：同封の「株主様アンケート」に記載の「工場見学会へ出席をご希望される株主様」の欄に必要な事項をご記入の上、ご返送ください。

応募締切：2017年1月6日消印有効とさせていただきます。

当選発表：応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選発表につきましては、当選者へのご連絡をもって代えさせていただきます。その際、当日の運営等詳細もあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報、本見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

### お問い合わせ先

株式会社ジーテクト 工場見学会係

電話番号 048-646-3404 9:00~17:00(土、日、当社休日を除く)

## 株主優待のご案内

100株以上保有の株主様に、継続保有期間に応じて、以下の通りクオカードを贈呈いたします。

継続保有期間	1年未満の株主様	1,000円
継続保有期間	1年以上3年未満の株主様	2,000円
継続保有期間	3年以上の株主様	3,000円

※割当基準日は3月末日です。



株式会社ジーテクト

本社 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



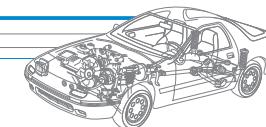
# 第6期 株主通信

## 上半期のご報告

2016年4月1日~2016年9月30日

株式会社ジーテクト

証券コード：5970



# 持続的な成長を目指して

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

近年、自動車産業では、さらなるグローバルでの競争激化に加え、未来のモビリティシステムを実現するための自動運転車や、共同利用される車両の運行を指示・制御するための交通ネットワーク情報システムの開発が急がれています。さらには、EVや燃料電池に代表されるパワートレインの電動化により、自動車は大きな転換期を迎えております。この変化を的確に捉え、持続的な成長を続けていくためには、当社が今まで培ってきた車体技術に新たな技術を加えていくとともに、時代の変化に迅速に対応できる企業へ体制を強化する必要がありますと考えております。

そこで当社では、現在、3つのイノベーションを実行し、体制の強化を行っています。

自動車に不可欠な「さらに軽く、さらに強いボディ」の開発・量産化が当社の競争力の源泉であるとの認識のもと、ドイツの調査拠点、アメリカの研究開発拠点と併せ、国内に新たに研究開発の中核拠点を設け、先進技術を実用化し(技術イノベーション)、その技術を駆使して世界の完成車メーカーからの受注拡大を図るとともに(販売イノベーション)、これら2つのイノベーションを強力に推進する人材を育成するため、年功序列を廃した計画的な人材育成を通じた業績評価(人事イノベーション)を開始いたしております。

この3つのイノベーションを中長期的に推進することにより、持続的かつ強靱な成長を遂げていきます。



代表取締役社長 高尾 直宏

なお、当第2四半期連結累計期間における業績及び当期の業績動向を踏まえ、株主の皆様のご期待にお応えし、さらなる利益還元を推し進めるべく、中間配当につきましては、当初の計画を修正し、1株当たり1円増額の、1株当たり18円とさせていただきます。期末配当につきましても、計画を修正し、1株当たり1円増額の、1株当たり18円とさせていただきます予定です。

今後とも社会から信頼される企業であるために、全社一丸となって持続的な成長を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、長期に亘り引き続き、当社の事業運営に対する絶大なるご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2016年12月

## 営業の概況

自動車業界におきましては、海外では、北米で未だ高水準ながら販売台数の伸び悩みが見られた一方、中国、アジアは総じて好調な販売となりました。日本では、軽自動車販売の減少が続いており、全体として販売が停滞しました。

このような経営環境の中、当グループでは、ドイツ調査拠点を本格稼働させ、軽量高剛性ボディ実現のためのマルチマテリアル化など先行要素技術開発を集約するため、東京に先端研究拠点立ち上げの準備を進めています。生産領域では、生産変動に柔軟に対応する施策を推進しています。

当第2四半期連結累計期間の業績については、生産台数の増加や機種構成の変化等がありましたが、為替の影響や北米や南米における型設備売上の減少等により、売上高は102,848百万円(前年同期比8.3%減)となりました。

利益につきましては、欧州、アジア、中国における量産売上増加による増収効果、原価低減等の取り組みが奏功し、営業利益は7,916百万円(前年同期比30.6%増)となりました。為替評価損がありましたが持分利益が改善し、経常利益は7,490百万円(前年同期比37.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,092百万円(前年同期比47.1%増)となりました。

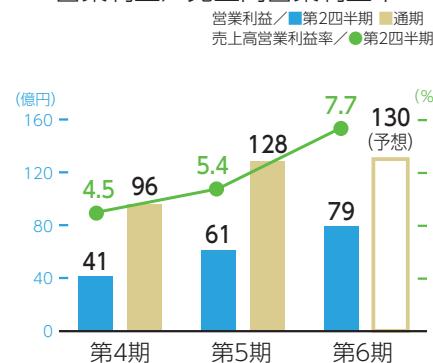


## 財務ハイライト

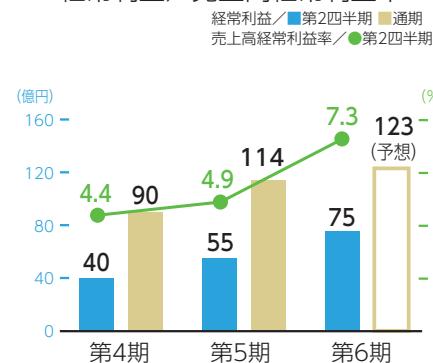
### 売上高



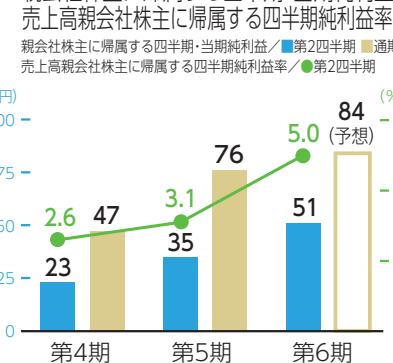
### 営業利益/売上高営業利益率



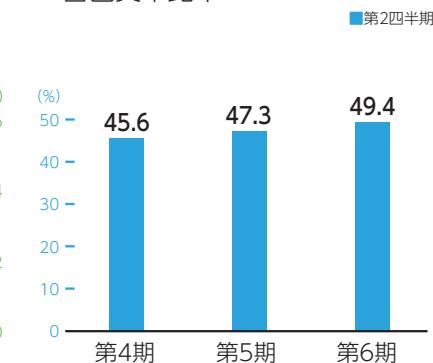
### 経常利益/売上高経常利益率



### 親会社株主に帰属する四半期・当期純利益



### 自己資本比率



## ジーテクト中長期ビジョン

### ▶ 2020年Vision 新G4-20(ジーフォー・トゥエンティ)

当社では、従来より、2020年ビジョンとして『G4-20』を掲げ、世界TOPを目指しておりますが、来期から始まる第3次中期に向けて、「Genba」「Global」「Grow up」「Green」の4つの領域を加速的に進めるため、新たに「3つのイノベーション」と「持続的な成長と進化」を追加しました。

「3つのイノベーション」とは、未来のモビリティシステムのニーズを先取りし、これまでにない競争力を創造する「技術イノベーション」、より良い物を世界中の皆様にお届けするための「販売イノベーション」、そして、これらを支える人材育成を伴った「人事イノベーション」です。

これらのイノベーションを中長期的に推進することで、『持続的な成長と進化』を遂げてまいります。



### ▶ 目指す姿

この『G4-20』のアウトプットとして、クリアすべきハードルを明確にするため、5年後を目処として「連結売上高3,000億円」「連結営業利益200億円」の達成を具体的な目標として定めました。

当社では、この目標を必達するために、「技術」「販売」「人事」の3分野におけるイノベーションを強力に推進し、さらなる企業体質の強化に努めてまいります。



## 技術イノベーションに向けた取り組み ～東京に研究開発棟新設へ～



### コンセプト

- 新たな研究環境で、技術イノベーションを加速
- 魅力ある研究環境で、新たな発想を持つ人材の確保

### 【概要】

所在地：東京都羽村市

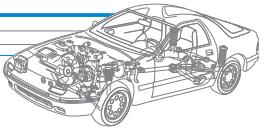
完成時期：2017年12月

投資額：20億円

近年、自動車業界では、グローバルでの競争激化に加え、パワートレインの電動化といった大きな転換期を迎えており、これからの自動車には、従来以上に、より軽量で、高剛性な車体が求められております。このような中、市場のニーズを的確に捉え、お客様の期待を超える製品を提供するための新技術の研究開発を行う中核拠点として、東京都羽村市に研究開発棟を新設することを決定いたしました。

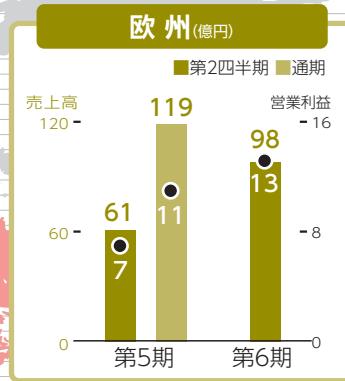
この研究開発棟では、これまでとは一線を画した研究環境で、新たな発想を持つ人材、最新鋭の設備、そして、米国及びドイツの研究拠点との連携による最先端の技術情報等を集結させ、「技術イノベーション」を強力に推進してまいります。





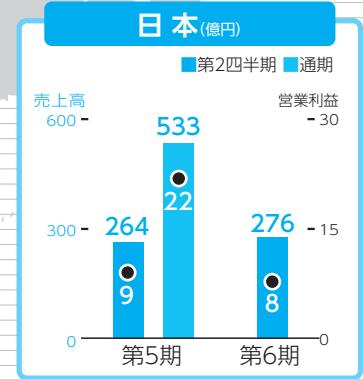
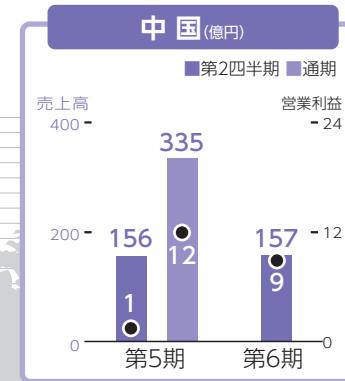
グローバル競争に打ち勝つため、世界11カ国、20拠点、26工場、2R&D、1Rで、全世界対応の企業規模と展開力を実現、コスト競争力の更なる向上を図ります。

売上高は、型設備売上の減少及び円高による為替影響等により減収となり、37,341百万円(前年同期比19.1%減)となりました。営業利益は、新規拠点の収益が改善した一方で、金型売上の減少、労務費、製造経費の増加等により、2,167百万円(前年同期比13.4%減)となりました。

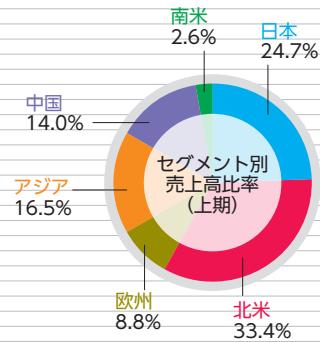


新型シビックやジャガーの立ち上がりにより、量産・型設備売上が増加し、売上高は、9,846百万円(前年同期比60.2%増)、営業利益は、1,339百万円(前年同期比85.3%増)となりました。

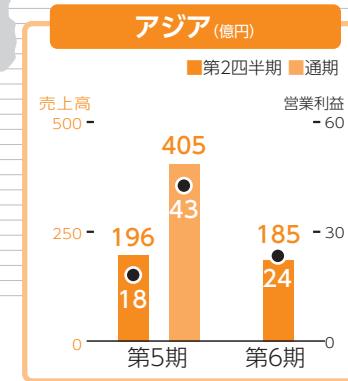
売上高は、生産台数の回復による量産売上の増加に加え、型設備売上の増加等により、円高による為替影響等があるものの、15,699百万円(前年同期比0.9%増)となりました。営業利益は、生産水準の回復や原価低減の取り組み等により、920百万円(前年同期比11.1倍)となりました。



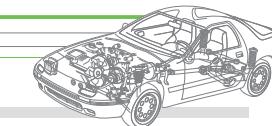
売上高は、輸出車種の増加や機種構成の差異、型設備売上の増加等により、27,573百万円(前年同期比4.3%増)となりました。営業利益は、労務費・試験研究費の増加、非量産売上の円高影響等により、837百万円(前年同期比8.8%減)となりました。



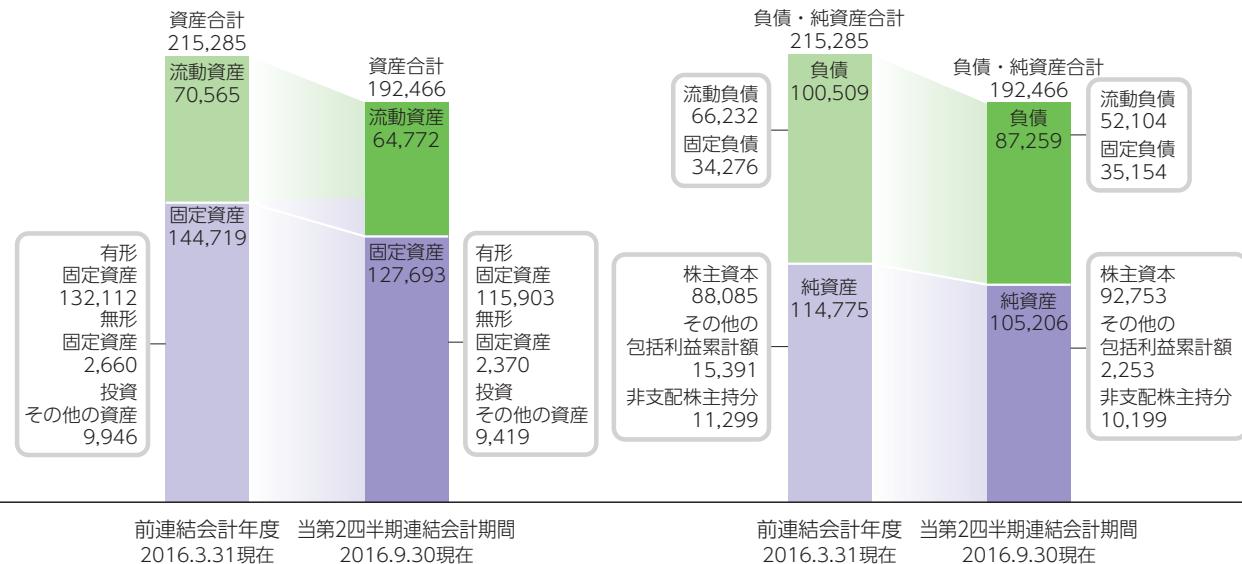
売上高は、型設備売上の減少及びレアル安による為替影響等により、2,913百万円(前年同期比49.6%減)となりました。営業利益は、厳しい事業環境の中、原価低減の取り組みの効果が認められるものの、減収の影響等により、207百万円(前年同期比3.0%減)となりました。



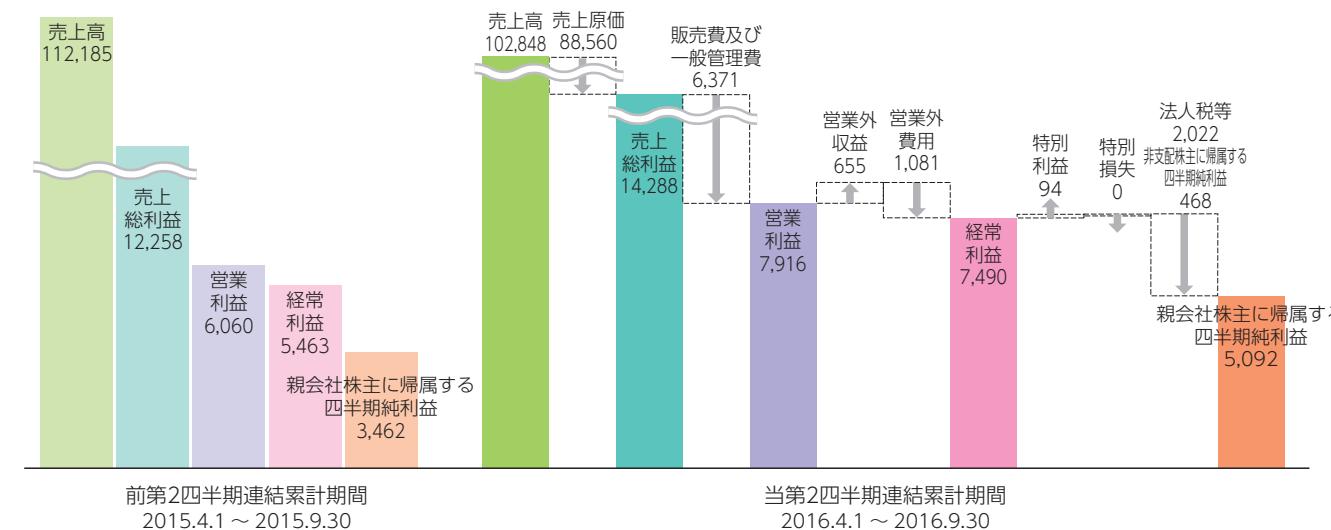
売上高は、主力市場であるタイ市場の生産の回復に加え、インドネシアも生産が拡大した一方で、円高による為替影響等があり、18,479百万円(前年同期比5.9%減)となりました。営業利益は、タイ・インドネシアの増収効果等により、2,403百万円(前年同期比32.5%増)となりました。



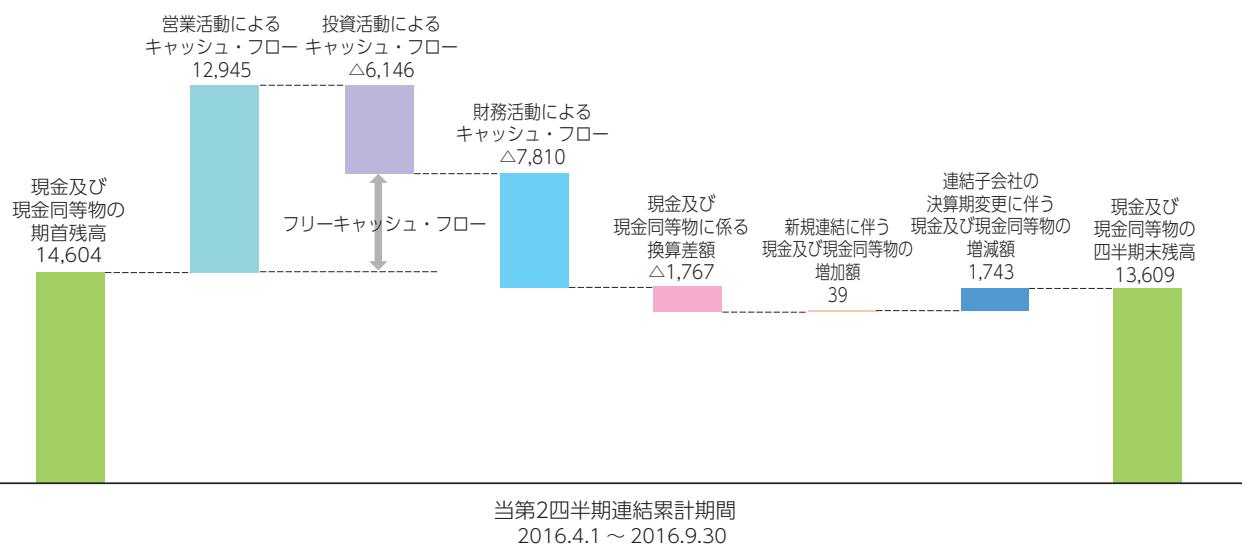
四半期連結貸借対照表 (要旨) (百万円)



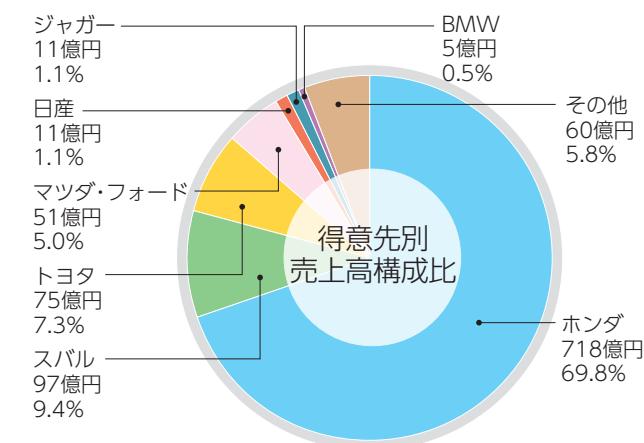
四半期連結損益計算書 (要旨) (百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (百万円)



財務のポイント



当社の配当政策は、安定配当を基本とし、業績、成果に基づく利益還元を継続的に行うこととしております。1株当たり中間配当は、当期の業績動向を踏まえ、さらなる利益還元を推し進めるべく、当初の計画を修正し、1株当たり1円増額の、1株当たり18円と決議いたしました。期末配当につきましては、計画を修正し、1株当たり1円増額した18円の配当を予定しており、年間で36円の配当を計画しております。

ホンダ様の売上高は、生産台数の増加がありましたが、特に為替の影響を受けたことにより、前年同期に比べ減少いたしました。トヨタ様につきましては、海外における生産台数の減少や為替の影響により、減少しております。マツダ・フォード様は、タイにおける型設備売上、量産売上の増加により、大きく増加いたしました。

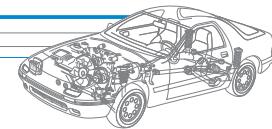
会社概要 (2016年9月30日現在)

- 社名 株式会社ジーテクト
- 創業 1947年4月1日
- 設立 1953年11月4日
- 資本金 4,656,227,715円
- 代表取締役社長 高尾直宏
- 事業内容 車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
- 国内拠点
  - 本社、埼玉工場、滋賀工場、群馬工場、栃木工場、C&C栃木、埼玉工場羽村事業所、羽村事務所
- 海外拠点(連結子会社18社、持分法適用関連会社1社)
  - アメリカ**  
Jefferson Industries Corporation (JIC)  
Jefferson Southern Corporation (JSC)  
Austin Tri-Hawk Automotive, Inc. (ATA)  
G-TEKT America Corporation (G-TAC)  
G-TEKT North America Corporation (G-NAC)
  - カナダ**  
Jefferson Elora Corporation (JEC)
  - メキシコ**  
G-TEKT MEXICO CORP. S.A.DE C.V.(G-MEX)
  - \* G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.(G-ONE)
  - ブラジル**  
G-KT do Brasil Ltda. (G-KTB)
  - イギリス**  
G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.(G-TEM,G-TEM2,G-TEM3)
  - ドイツ**  
G-TEKT (Deutschland)GmbH.(G-TED)
  - 中国**  
Auto Parts Alliance (China) Ltd. (APAC,APAC2)  
Wuhan Auto Parts Alliance Co.,Ltd. (WAPAC)  
Conghua K&S Auto Parts Co., Ltd. (CKS)
  - インド**  
G-TEKT India Private Ltd. (G-TIP)
  - タイ**  
G-TEKT (Thailand)Co.,Ltd. (G-TTC)  
G-TEKT Eastern Co.,Ltd. (G-TEC,G-TEC2)  
Thai G&B Manufacturing Ltd. (TGB)
  - インドネシア**  
PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing (G-TIM)

※持分法適用関連会社

役員 (2016年9月30日現在)

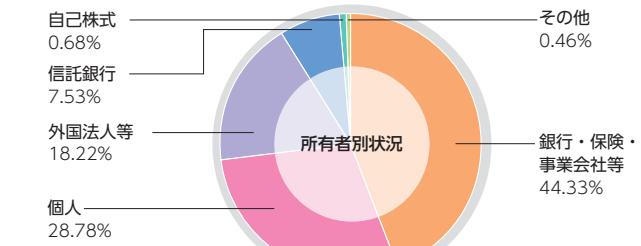
代表取締役会長 取締役会会長	菊池 俊 嗣	
代表取締役社長 社長執行役員	高尾 直 宏	
取締役 常務執行役員	米谷 正 孝	営業本部長
取締役 常務執行役員	洞 秀 明	技術本部長、技術管理室長
取締役 常務執行役員	石川 美津男	海外事業本部長
取締役 常務執行役員	中西 孝 裕	生産本部長、生産本部群馬工場長、 リスマネジメントオフィサー
取締役 常務執行役員	吉 沢 勲	事業管理本部長、コンプライアンスオフィサー、 法務部長
取締役 上席執行役員	小久保 正	品質保証本部長、購買部担当
社外取締役	利根 忠 博	
社外取締役	大胡 誠	弁護士
常勤監査役	下垣 司 郎	
常勤監査役	田村 依 雄	
社外監査役	有賀 茂 夫	税理士
社外監査役	飯島 誠 一	公認会計士
常務執行役員	宮 崎 幸 一	中国地域本部長、APAC董事長総経理
常務執行役員	原 和 彦	北米地域本部長、JIC代表取締役社長、ATA会長、 G-NAC会長
常務執行役員	宮 野 茂	アジア地域本部長、G-TEC代表取締役社長、 TGB代表取締役社長
上席執行役員	近藤 巧	富士重工業事業責任者、技術本部副本部長、 生産本部栃木工場長
執行役員	菊池 哲 雄	生産本部埼玉工場長
執行役員	菊池 英 次	経営企画室長
執行役員	内山 雅 保	南米地域本部長、G-KTB代表取締役社長
執行役員	藤澤 恭 司	事業管理本部副本部長、経理部長
執行役員	原 栄 光	技術本部副本部長、開発部長
執行役員	高山 隆 一	ATA代表取締役社長
執行役員	瀬古 浩	欧州地域本部長、 G-TEM代表取締役社長
執行役員	矢端 志津男	技術本部副本部長、プレス技術2部長
執行役員	林 政 行	G-TIM代表取締役社長
執行役員	廣 瀧 文 彦	営業本部副本部長、営業1部長



株式の状況 (2016年9月30日現在)

発行可能株式総数 ..... 100,000,000株  
 発行済株式総数 ..... 43,931,260株  
 株主数 ..... 3,671名

株式分布状況



大株主 (上位10名 敬称略)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
本田技研工業株式会社	13,035,098	29.87
高尾博之	4,331,768	9.93
菊池俊嗣	2,904,480	6.66
ビービーエイチ フィデリティ ビューリタン フィデリティ シリーズ インタリシツク オポチュニティズ ファンド	2,500,000	5.73
TKホールディングス株式会社	2,194,344	5.03
株式会社ケー・ピー	1,480,800	3.39
高尾直宏	1,286,576	2.95
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	917,600	2.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託0)	870,400	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託09)	583,900	1.34

(注)持株比率は、自己株式297,531株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所(市場第一部)
公 告 の 方 法	当会社の公告は、電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子 公告による公告をすることができない場合は、日本 経済新聞に掲載して行います。

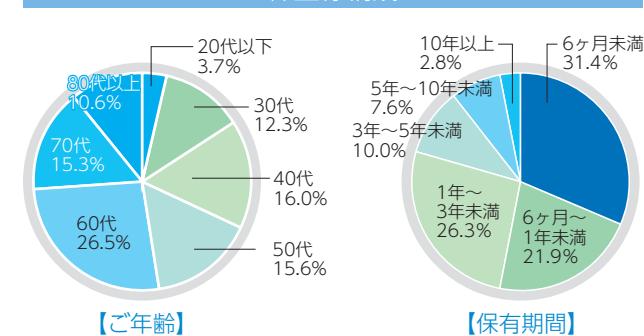
「株主様アンケート」集計結果のご報告

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

前回の株主通信に同封させていただきましたアンケートに566枚(回収率11.4%)のご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

ここで、アンケート結果の一部をご紹介します。  
 なお、アンケート結果につきましては、株主様からの貴重なご意見として取締役会に報告させていただいており、株主優待の導入や配当額の検討、開示情報の充実などに役立てております。  
 (調査期間 2016年6月17日～2016年7月31日)

株主様構成



「株主様アンケート」集計結果

当社株式保有にあたり最も望まれることをお聞かせください。

- 利益成長 / 29.1%
- 配当 / 27.2%
- 株主優待 / 40.7%
- 情報開示の充実 / 1.2%
- 個人投資家説明会 / 1.3%
- その他 / 0.5%

当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。

- 買い増し / 10.3%
- 長期保有(5年以上) / 56.1%
- 中期保有(2年～5年未満) / 16.8%
- 短期保有(2年未満) / 1.6%
- 売却済み / 3.4%
- 未定 / 11.8%